

林業試験場成果発表課題 要約

1. クマノザクラの保全と活用に向けた取り組みについて

(競争力アップ H31~R3 研究員 的場 彬通)

クマノザクラは日本において約 100 年ぶりに新種記載されたバラ科サクラ属の野生種である。クマノザクラの増殖方法を検討するため、挿木・接木によるクローン増殖手法について検討した。

また県内 10 市町村から 73 個体の優良候補木を選び、簡易評価を行った。サクラ植栽地の土壌を採取し、連作障害の有無とその対策について調査した。

2. 第二世代マツノザイセンチュウ抵抗性アカマツ品種について

(基礎研究 H28~ 主査研究員 斉藤 雅一)

西南日本で選抜されたマツノザイセンチュウ抵抗性アカマツの中で、抵抗性が上位のクローン同士(4 品種、6 組合せ)を交配し、これまでよりレベルアップした抵抗性を有する第二世代抵抗性品種の創出を行った結果、6 家系 7 本が新たに品種認定された。

3. 簡易型強度測定器による県産スギ、ヒノキ原木の強度性能評価

(基礎研究 R3~7 主任研究員 山裾 伸浩)

県産スギ、ヒノキ原木の強度性能に応じた選別及び強度性能の分布状況を推測できるデータベースの構築を目的として、県内の原木市場で簡易型強度測定器による原木のヤング係数(変形しにくさを表す、強度性能の指標)データを収集し、樹種別、径級(太さ)別等に集約、分析を行った。

この成果を活用することで、強度性能の明らかな紀州材製品の効率的な供給に向けた原木の選別、ひいては紀州材ブランドの向上に資することが期待される。

4. サカキを加害するサカキブチヒメヨコバイの防除について

(基礎研究 R3~7 主任研究員 田中作治)

和歌山県の特用林産物で国内有数の生産量を誇るサカキの成葉に白点被害が発生するサカキブチヒメヨコバイによる被害が、県内全域に拡大し、生産地の維持が懸念されている中、サカキ生産者等からの防除要望に応え、研究成果をまとめた防除マニュアル改定版を作成した。今回、防除マニュアル普及啓発と薬剤現地実証試験等の研究成果を報告する。

5. ホンシメジ感染ウバメガシ苗の作成および林地栽培の検討

(基礎研究 R3~7 主査研究員 杉本小夜)

ホンシメジは味が優れ商品価値の高いきのこであり、生きている樹木と共生関係を築く菌根性きのこである。ホンシメジの栽培による林地活用を目的に、菌糸を培養した土壌培地を用いて、ホンシメジ感染ウバメガシコンテナ苗の作成と、林地に生育しているウバメガシへの接種を行った。

その結果、感染苗では菌根が多く形成された苗ほど苗高が高くなる傾向が見られた。また、林地に生育しているウバメガシへの接種では、実施した 5 カ所のうち半年後に 2 カ所で菌根の形成を確認した。